

超次元的经营法を生きる

繁栄の根本精神を自覚せよ

「生命の実相」哲学に基づく繁栄の根本精神は、実相の世界に繁栄ばかりがあるという自覚が一番の基礎になるのです。現象世界は唯心所現の世界であるから、ある人が繁栄しないということは、その人に迷いが現れている証拠です。しかし、どんなに現象界で乏しい現象が現れていようとも、それは仮の姿であってその人の本当の姿ではないのです。それで人間は自分の生命の本当の姿、即ち実相の自分を、実相の世界をしっかりと自覚したとき、初めて繁栄ばかりの世界が現実界に現れてくるのです。神の造り給うた実相の世界には、生活難も事業不振も病気もその他一切の不幸は無いのです。たゞ我々が現象の問題に執われて迷い本当にある真諦を自覚（証明を用いずに了知）すると、自然に世諦が成就するのです。これが道と経済の合一である。

繁栄の根本精神の第二は

実相世界は無限供給・無限流通循環の世界であって、互いに奪い合いの無い世界、みんな調和して共に栄えている世界が、今現に実在しているのであるというこの自覚を根本的に持つことです。例えば、所属業界や対象マーケットに企業が多数ひしめき合って、自分が栄えたら、他の人が栄えなくなる式の商売をしている人もあるが、しかし、それは迷いが現れている仮相であって、実相の世界においては奪い合いというものは本来無いのである。凡そ現実界に奪い合いの弱肉強食の世界が出てくるのは、多くの人が、この

世界を唯物的に考えて、「この世界は有限である」と局限して、自分だけこの商売を把んで良くなりたいたいという間違った考えを持つているからです。だから吾々は、現象にいかなる悪しき姿が現れようとも気にかけて、ただひたすら実相の世界の完全な姿のみを正観して、自分が今何をなすべきかを神から知らせていただくようにすれば、奪い合いなどしなくとも商売は繁栄するのである。

繁栄の根本精神の第三は

ともかく根本的に繁栄というものが人間の智慧から来るという考えが間違いです。すべての供給は神から来るのであって、実相の世界が吾々に流れ入って繁栄が実現するのであるという根本をしっかりと自覚することです。神から循環してきた栄えを素直に受け止めて、それを、人々に与えないで、「自分の会社は、わしの力で繁栄したんだ、神から与えられたものでない」というような利己主義的な考えであれば、やがて必ずその人の事業はいき詰まることになります。しかし、人間力では、どうにもならない行き詰まりが生じたときには、スツカリ絶望して悲嘆にくれて最悪の時を予想して魂が暗黒の中に崩れ去ってしまうその時に、人はようやく無限供給の本源に振り向くのです。

繁栄の根本精神の第四は

吾々が繁栄しようと思つならば自分の内にある「繁栄」を引き出すことです。す

べてのものは、外から吾々に近づいて来るように見えていても、実は自分の内にあるものが、外に映って外から動き出して来るように見えるのです。従ってまず自分の内にある「繁栄」を引き出してくれば、外の世界にも繁栄が近づいて来るのです。自分の中にある繁栄とは、心に描いた繁栄の空想のことではありません。心の繁栄を空想して破産した無数の相場師や投資家の実例で明白です。「生命の真相」で説かれている「自分の中にある繁栄」とは、自分の中にある「数理的先見」・「数理的秩序」の事です。数理を無視して、繁栄を空想し、神の加護を空想してダラシない放漫経営をしていて、「繁栄」を心に描いたのに「繁栄」が出てこなかったと考えるのは大変な間違いです。それは本当の信仰ではなく、神に責任を負わずとこころの卑怯な怠惰の一形式です。本当の繁栄は、この自然の天体の運行や肉体の生理作用など悉く数理的秩序によって整然と行われているように、事業の繁栄も数理的秩序によって積み重ねられてくるものです。繁栄を願うものは、「神よあなたの無限の智慧をもって我が事業を数理的に計画し実行することを得せしめ給え」と神に祈ることです。事業を成功させるには色々の条件を精細に検討し、数理的に予算を立てて堅実なる基礎の上を実行していくことです。このような生き方を貫くときに自然に繁栄の法則に乗ることができるのです。

繁栄の根本精神の第五は

自分の会社の事業名義を「私」から「神」に書き換えることです。すべての供給は神のみから来るのですから、供給の本源を神に仰ぐ以上、自分の会社は自分の所有物でなく、神が経営し給う会社である

という自覚に徹するべきです。自分の心が神に対して全開きになって、我が事業を神の事業として自分は神の指示に従って動く手足又は番頭になればよいのです。もし、現在自分の会社が繁栄しないという人がいれば、それはその人の心が神に対して半回転しているだけで全回転して全開きになっていない証拠です。かかる人は、まだ事業を自分が儲けたい一心でやっていたり、世間に認めてもらいたい我欲のためにやっている場合が多いわけです。本当に自分のやっている仕事が世のため人のためになるものであれば、必ず需要は殖え、天手古舞の忙しさになって千客万来・無限

供給・大繁盛が実現して来るのである。